

# 狭山ケーブルテレビ株式会社

## 令和5年度 放送番組審議委員会 議事録

日 時：令和6(2024)年3月12日(火) 15:00~17:00

場 所：狭山ケーブルテレビ株式会社 本社3階会議室

出席委員：吉田 徹弥(委員長・新任) 黒川 進(副委員長・新任)

北田 奈緒美 豊泉 直美

東山 徹(新加入)

欠席委員：山崎 康成、宮野 圭司(MEMOにてご意見を賜りました)

局出席者：清水 武信(代表取締役会長) 清水 信之(代表取締役社長)

大塚 一正(メディア事業部長) 藤田 敏行(メディア事業部企画制作課長)

《いずれも敬称略》

議事内容：委員には事前に活動紹介DVD(番組中心)をご視聴願ひ

弊社側の営業報告と制作報告を受けての一括審議

### 発言内容

<清水社長あいさつ(抜粋)>

来年4月で30周年を迎えるにあたり記念イベント等を考えている。

これからは若者に関心を持ってもらえるかが課題。運営では会社の命運を分ける大きな岐路に立っている。地域に無くてはならない会社、見たい番組作りを頑張っていきたい。

<吉田番組審議委員長あいさつ(抜粋)>

最近の地域活動ではアマチュア無線の普及啓蒙活動を行っていてケーブルテレビにも

協力いただき、ゆくゆくは防災につなげたいと考えている。昔ケーブル立ち上げの時に父親が手伝った縁もあって今に続いている。1年間よろしく願ひする。

### 報告事項

<営業関連 清水社長>

#### ■加入状況等報告

サービス別累計加入数による最新の集計では放送視聴世帯数は36,512世帯。

インターネット契約は順調に増えていて今後もインターネットが主流になるだろう。

弊社独自サービスの「オアシスサポート」は大手も真似できずお客様にも好評。

## ■エリア光化計画

地デジ化以降 2017 年に NTT 東日本との協業により光ファイバーへ移行。

2030 年までにエリアを 8 つに分け、狭山市を完全光化へ。

## ■LINE 公式アカウント

昨年からスタートし現在 539 人、早く 1,000 件を目指し、コミュニケーションアンケートなどで番組作りに活かす。

## <コミュニティチャンネル関連 大塚部長>

### ■令和 5 年度の取り組みについて

- ・新番組の定着化・・・「MASARU のごきげんチャージ」を軸に YouTube 配信との連動により加入者プラス未加入者への訴求で新規加入に繋げる。
- ・狭山市入間川七夕まつり中継・・・4 年ぶりの通常開催を生中継。その他特番やニュースで放送。夜の花火大会も YouTube 含め生中継。
- ・選挙速報・・・市選管との協力で放送（県議選・市議選）。
- ・新年番組・・・「カラオケ大会」実施で市民参加型の番組作りが復活。
- ・県内ケーブルテレビとの連携・・・交換番組、各種スポーツ中継。
- ・SNS の活用・・・YouTube のサムネイル制作等。
- ・オンライン配信サービスの定番化・・・新設のメディアコーディネイトチームとの連携。
- ・市議会中継録画放送の休止・・・昨年 9 月議会までで終了。予算切れや視聴アンケートの結果によるもの。

### ■令和 6 年度の取り組み

- ・外部スタッフ（フリーランス）の活用・・・基本方針「お客様に喜んでいただける番組作り、加入者様を増やすための番組作り」実現のため協力を求める。
- ・CM・企業VP等映像制作業務の強化・・・こちらでも外部スタッフを活用して、制作営業を強化し、売上増に結びつける。

## ◎質疑応答

《 委 員 》市議会中継の休止について改めて問いたい。

《清水社長》数年前から広報委員会からは予算削減については話があった。

弊社としては編集等含め何とかこれまで通りという願いむなしく休止ということとなった。

《藤田課長》収録編集の時間がかかりかかっている、議会がインターネットで生中継するようになり、1 日遅れで録画放送して果たしてどれくらいの方に見ていただけているかという点で思い悩んでいたのも、正直ホッとしている部分もある。

《 委 員 》 外部スタッフの活用については新人？それとも経験者？

《大塚部長》 経験者を対象としていて業務委託契約にて金銭面で折り合えば仕事を発注  
今後拡大する予定。

《藤田課長》 残念ながら未経験者を育成する余裕が現在ないという実情だが、この4月には  
社として初の新卒が3人も入って来るのでそちらの育成は頑張りたいと思う。

《 委 員 》 視聴者提供映像や市役所広報課と連携している市民カメラマンなど外部との  
連携はどうか。市の70周年カウントダウンで大学生が市のYouTubeでPR  
しているなどの実例もある。

《藤田課長》 現在弊社の番組内では「タウンニュース」の毎月最終週で東急入間川自治会の方  
が撮影した映像を放送している。またレギュラーを務めているMASARUさんが編集した映像が現在「ごきげんチャージ」で放送されているので今後は活用したいと考えている。

《 委 員 》 「タウンニュース」をYouTubeにて放送するという予定は？

《藤田課長》 ニュースについては一番の視聴コンテンツなので加入者様を最優先に考えるとYouTubeでの放送は考えにくい。また昨今肖像権の問題で子どもを含めYouTubeでの展開が非常に難しく、特に不特定多数が映り込むニュース等は特にである。

《 委 員 》 「お客様に喜んでもらえる番組、加入者を増やす番組」とは具体的に？

《大塚部長》 自分の営業時代に各家庭に訪問した際「コミュチャンを観ていない」と言われとてもショックを受けた。その時に思ったのは地元ばかりの情報をただ放送するのではなく、市外にも目を向け、もっとバラエティ要素を交えた番組作りが今後必要ではないかと考えた。その逆で市外のお店などを紹介して「狭山から来てくれたお客様がいた。ありがとう」と言われることもあった。

《清水社長》 市民がたくさん出る番組作りは現場には厳命していて、さらに同じケーブルテレビの各地の番組を研究し、東松山の生放送でクイズなど、すぐにでも活かせるものは取り入れるよう言っている。特に生放送は今後の課題だ。

《清水会長》 税理士協会での講演会など専門家の話しを放送することによって興味を持って参考にしたりしてもらっているようだ。

《 委 員 》 近所の高齢者が石心会の健康番組についての話をよくされる。

《藤田課長》 4月からの新編成では石心会の健康番組が1コマ（毎日）増設される。  
また全国の優秀な（面白い）番組については毎年ケーブルテレビ局が一堂に会しての番組アワードでの受賞作品を数カ月にわたり「ちゃっぴい撮影隊参

上！」内にて放送している。受賞作品については長短問わず、ドキュメント作品が多いのが特徴。しかしバラエティ含め、社員には全国にチャレンジするよう働きかけている。

《 委 員 》 市の広報紙との連動を是非考えてみてはどうか。

《清水社長》ありがとうございます。是非前向きに考えさせて欲しい。

《 委 員 》 連携といえば教育コンテンツの形成のため、現在休止中と言われる

さやま市民大学との連携も視野に入れてみてはどうか。

御社の外部スタッフ（フリーランス）育成の場になるかも知れないし、

不登校児童や帰宅後の小学生の学習の場となるような番組作りを行い

アーカイブ化してもらいたい。

《 委 員 》 番組コンテンツについてオンラインはもちろん後から観られるようオンデマ

ンド化も考えてもらいたい。講師などは大学生のボランティアなどで賄えれ

ばと思う。

《 委 員 》 地元の西武文理高校や大学との連携についてはどうか。

《清水社長》授業の中で番組を作るというご提案を委員からはいただいた。

その中で SDGs に関する番組作りに関しては県に対して働きかけて、産学官連携を達成したい。

《 委 員 》 産学官連携という中で、入曾に新しくできるイオンとの連携については。

《藤田課長》今のところ営業面での連携という感じではなくあくまでニュースでの露出

（取り上げ）にとどまっている。

以上